

悲しみよこんにちは (1957)

BONJOUR TRISTESSE

メディア 映画
ジャンル ドラマ ロマン스
製作国 イギリス/アメリカ
色彩 Color
時間 94分
初公開日 1958/04/29
公開情報 COL
リバイバル 1976/08 [I P]
1980/05 [I P]

【キャッチコピー】

セシルは17才——リビエラの爽やかな風と、恋の悲しみに微笑みをかわす フランソワーズ・サガンのベストセラー完璧の映画化！（リバイバル時）

【解説】

ソウル・バスによるタイトルデザインがとりわけスマートなO・プレミンジャー作品。わずか18歳で書いたこの原作でフランスだけでなく、一躍世界の売れっ子作家になったF・サガン。そのスノビズムがニーヴンやカーといったシックさを体現する役者たちの登用で、かなり上手く消化されている。そして、言わずもがな、セシル・カットの流行を生んだセバーグのボーイッシュな魅力。17歳のブルジョアの少女が父レイモンに新たに出来た恋人アンヌ（カー）が母となる現実を受容できず、それまでの若い愛人エルザ（ドモンジョ）と共謀して、父と彼女との仲をアンヌに見せつけて別れさせようとする。ところが絶望に車を駆って去るアンヌは運転を誤って崖から落ちて死んでしまう。一年前の出来事だった。今は陽光明るい夏のリヴィエラにいても、少女の世界は晴れることなどないと思われる惨めな悲しみに満ちていた。灰色の現在は白黒、過去は眩いテクニカラーで描かれる。G・オーリックの音楽、グレコの主題歌とたっぷりフレンチ・ムードに浸れるハリウッド（米英合作）映画だ。

【クレジット】

監督	オットー・プレミンジャー	Otto Preminger	
製作	オットー・プレミンジャー	Otto Preminger	
原作	フランソワーズ・サガン	Francoise Sagan	
脚本	アーサー・ローレンツ	Arthur Laurents	
撮影	ジョルジュ・ペリナール	Georges Perinal	
音楽	ジョルジュ・オーリック	Georges Auric	
タイトルデザイン	ソウル・バス	Saul Bass	
出演	ジーン・セバーグ	Jean Seberg	セシル
	デボラ・カー	Deborah Kerr	アンヌ・ラルソン
	デヴィッド・ニーヴン	David Niven	レイモン
	ミレーヌ・ドモンジョ	Mylene Demongeot	エルザ
	ジェフリー・ホーン	Geoffrey Horne	フィリップ
	ジュリエット・グレコ	Juliette Greco	ジュリエット・グレコ
	ワルテル・キアーリ	Walter Chiari	パブロ
	マーティタ・ハント	Martita Hunt	フィリップの母
	ローランド・カルヴァー	Roland Culver	ロンバード

ジーン・ケント	Jean Kent	ヘレン・ロンバード
デヴィッド・オクスリー	David Oxley	ジャック
ヘルガ・アンデルセン	Elga Andersen	デニース
ジェレミー・バーナム	Jeremy Burnham	ヒュバート